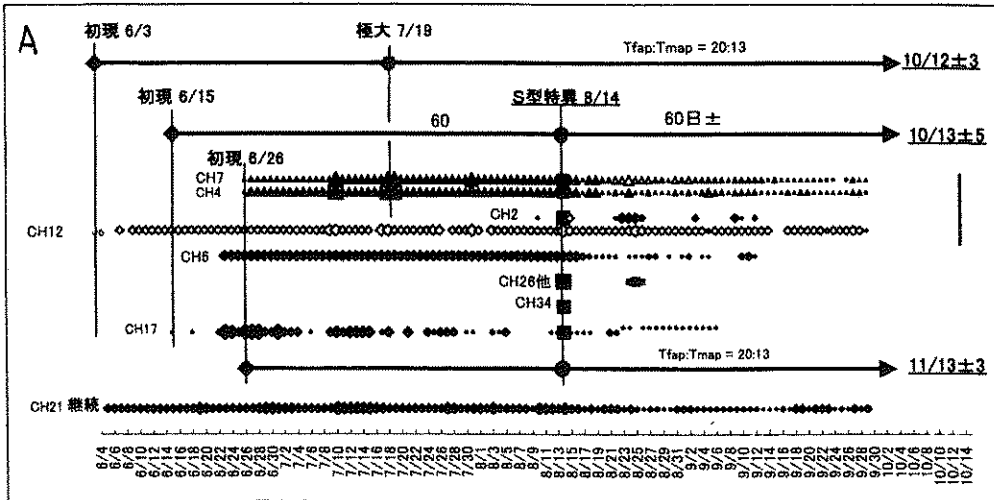


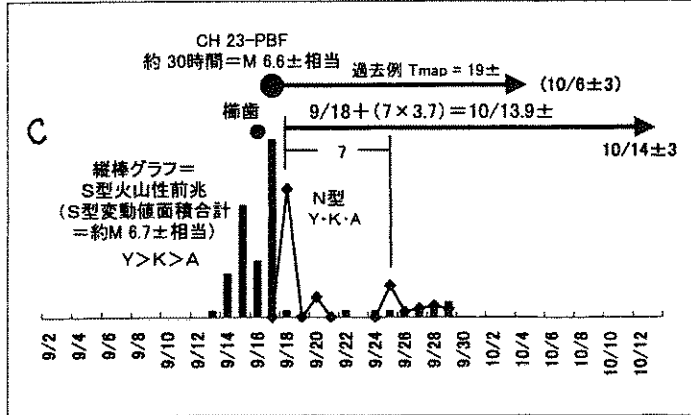
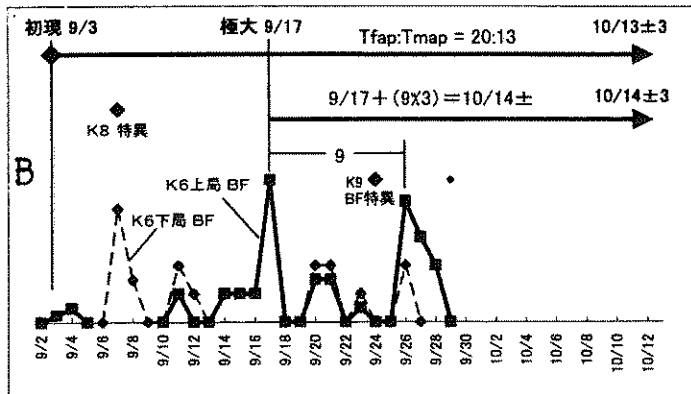
原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続地殻大型地震推定前兆続報 前兆継続→10月14日±の可能性も検討



(※少々考え難いですが10月06日±等10月14日以前が推定された場合は緊急で続報予定)



- ◆推定領域: 右図 太線領域=大枠推定 斜線領域=参考推定領域
- ◆推定規模: M7.8 ± 0.5 (上図C前兆も同一活動を示す可能性有) (上図C前兆がNo.1778とは別活動の場合=M6.6 ± 0.5の可能性有)
- ◆推定時期: 10月14日±2 (10月初旬~上旬に前兆終息が条件) ※10月初旬~上旬に前兆が終息しない場合は11以降の可能性有
- ◇推定地震種: 震源浅い(数km~20km±) 日本列島自体の地殻地震
- ◇推定発生時刻: 午前9時±1時間 又は(夕刻6時±2時間) ※09月29日現在の認識です。今後の観測で修正必要の場合は続報で修正予定。C) Copyright 2015 YSBO 八ヶ岳南麓天文台

2008年7月より7年3ヶ月継続となる、観測過去例中最長前兆継続となる震源が浅い陸域の地殻大型地震が推定される地震前兆群=No.1778の続報、現況報告です。〔過去の最長例は2008年発生の手内陸南部(若手宮城内陸)M7.2地震の前兆=3年3ヶ月です〕
2015年09月末現在、No.1778前兆群の第8万~認識です。第7万~が示した8/14±にS型特異が複数観測装置に顕著に出現し、第8万~の極大が出現。前兆は、CH4, 7の直接波近似変動とCH21, 12の特異のみが継続中で、微弱化しています。幾つかの観測装置の前兆静穏化を検討し、10月06日±発生の可能性も検討していましたが、本日09

月29日現在、微弱化していますが、前兆が継続していることから、10月初旬時期の可能性は考え難い状況です。左上図Aは、No.1778前兆群の第8万~の前兆出現状況図です。単純に見ますと、図の上部に關係を記したとおり、10月13日±の可能性も考えられます。下部には、11月13日±の可能性も否定できない關係を記しました。

さて、既に実験観測情報では随時報告して参りました(PHP新書地震予報読者の方へのホームページでは、未報告)が、09月17日をピークに、火山帯近傍地殻地震前兆(2014年長野北部地震と同型前兆)が出現し、過去例のTmapから09月06日±発生の可能性も考えられましたが、現状は10月14日±発生の可能性が考えやすい状況です。

この火山帯近傍震源浅い地殻地震の可能性前兆からは、長野西部~岐阜、石川、福井領域が示唆され、No.1778前兆から推定される予測震源領域と重なります。このことから、9/17ピークの地殻地震前兆(左図B=火山帯近傍地殻地震前兆と同期して出現した地震前兆。左図C=火山帯近傍地殻地震前兆で、左図BとCは同じ地震活動前兆と認識される)は、No.1778前兆の別形態前兆である可能性も示唆されます。左図Cの前兆からはM6.6 ± 0.5相当規模の活動の可能性が示されますが、仮にNo.1778前兆の別形態前兆である場合は、規模が小さくなった前兆として出現する過去例もあるため、推定規模が異なっても、別地震活動であるとは断定困難です。

No.1778前兆の第8万~からは、現在出現中の前兆が10月初~上旬に完全終息した場合は11月の発生は考え難く、10月14日±2発生の可能性が考えらるようになります。10月10日を過ぎても前兆が顕著に継続した場合は、上に示したとおり11月13日±等の可能性も示唆されることとなります。今後1~2週間の前兆変化が注目されます。変化がありましたら続報で報告予定です。

